

第 22 回 放送番組審議会議事録

平成 30 年 4 月 20 日
株式会社シーエス・ワンテン
株式会社テレビ朝日

1. 開催年月日 平成 30 年 3 月 15 日 木曜日 午前 10 時 30 分～ 12 時 00 分

2. 開催場所 株式会社テレビ朝日本社 8 階特別会議室

3. 委員の出席

委員総数 8 名

出席委員数 7 名

出席委員の氏名

委員長	池井 優	(慶応義塾大学 名誉教授)
委員	黒鉄 ヒロシ	(漫画家)
委員	高木 美也子	(日本教育財団 主幹研究員)
委員	戸張 捷	(株式会社ランダムアソシエイツ 代表取締役)
委員	丹羽 美之	(東京大学大学院 准教授)
委員	藤田 興彦	(児童育成協会 理事長)
委員	元村 直樹	(早稲田大学国際情報通信研究センター 研究員)

※欠席委員

委員	石田 則明	(無線システム研究所 代表)
----	-------	----------------

放送事業者側出席者氏名

株式会社シーエス・ワンテン	代表取締役社長	福田 泉
	業務推進本部長	渡辺 慎一

株式会社テレビ朝日 総合編成局編成戦略部

部長	清水 克也
統括担当部長	吉川 大祐
	前田 健太郎
	柿野 陽

総合編成局 CS 事業部

部長	前田 寿之
CS 編成担当部長	谷 俊之

4. 議 題

「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」、
「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」の番組について

5. 議事の概要

- ・事業報告
- ・編成説明
- ・番組審議

「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」課題番組の審議
『おじさん爆弾 第5回 おじ散歩（足立区編）』

「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」課題番組の審議
『「フィギュア特別企画 もう一度観たいあの演技」第3弾！』

6. 審議内容

①シーエス・ワンテンの事業報告

- 110度CS放送の加入者状況は、インターネットの影響により減少傾向が強くなっているが、スカパーキャンペーン実施の効果で契約数は増加する見込み。しかし、前年同月比では横ばいの傾向である。
- 「基本パック」契約数は、スカパーのキャンペーンが始まった2017年12月から上昇し、加入者を増やすことができた。
- 「セレクト5」は2018年1月に初の純減となり、これまでの傾向とは変わってきた。2月には増加し、契約数を前月の減少からやや戻した。
- 一年を通じて、インターネットの影響を意識する場面が多くあった。インターネットサービスとの連携を含めて、業界全体でこの課題について取り組む。
- 2018年10月にはCS110度帯域再編が予定されており、そこで新しい視聴者へのアピールを狙うべく準備をしている。
- 視聴者は、若年層よりファミリー層が中心であるが、少しずつ高年齢層へ変わってきている。

②テレビ朝日CS事業部の事業報告

「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」

- ケーブルテレビ等を含めた契約数は、前年同月比で増加している。
 - ケーブルテレビを中心に、スカパーの中でもシェアを増やして契約数を獲得している。
- 「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」
- ケーブルテレビ等を含めた契約数は、こちらも前年同月比で増加している。ひかりTVに採用された2017年3月以降、大きく契約数をのばしている。
 - スポーツを中心にプロレスを増やしフィギュアスケートやサッカーは地上波コンテンツより詳しく見せていることなどが評価を得ている。
 - 2017年のチャンネル増加数は、全チャンネル中で「テレ朝チャンネル2」は第1位、「テレ朝チャンネル1」は第3位である。テレビ朝日地上波コンテンツをベースに、オリジナルでインターネット配信していない番組を集中的に放送することにより、業界全体が減少傾向にある中、加入者数を獲得している。

③テレビ朝日編成戦略部の報告

4月編成について

- 編成方針はこれまでと変わらず、レギュラー番組については視聴習慣をつけることを重要視して、地上波のマスに強いコンテンツを継続。単発番組については、新しい加入者の獲得に重点を置き、コア層に刺さる、強い引きのある番組を編成する。
- 「テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ」
- 地上波発の強いレギュラーコンテンツとして、午後6時から「ドラえもん」「クレヨンしんちゃん」をベルト編成し、その前の時間帯もファミリー向けの「戦隊」「ライダー」「プリキュア」の新シリーズを編成している。
- レギュラー番組に関しては、5月以降で「ドクターX～外科医・大門未知子～」など新しい地上波の大ヒットドラマをラインナップに加える予定であり、新規加入者を獲得するためのコア層に向けたコンテンツでは、お笑いライブ、アイドル番組、韓流ファン向けのコンテンツを編成する。
- 「テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ」
- スポーツ番組が中心になっている。特にフィギュアスケートやプロレスが人気。但し、これらコンテンツは無尽蔵にある訳ではないので、視聴者からの「リクエスト企画」、過去のアーカイブを利用した「オレの激闘！ベスト5」のように企画を工夫していく必要がある。また、新規コンテンツとして、バドミントンやバレエを始める。新しい加入者獲得に繋がればと考えている。
- レギュラー番組では、スポーツが編成されない限りは4月から毎日21時台に「水曜どうでしょう」という人気番組をベルトで編成している。
- 加入状況や動画配信コンテンツの動向を見ながら、新しいコンテンツを開発していく。

◆テレ朝チャンネル1 ドラマ・バラエティ・アニメ

『おじさん爆弾 第5回 おじ散歩（足立区編）』 番組審議◆

<番組内容>

声優界でカリスマ的な人気を博している Uncle Bomb（浪川大輔、吉野裕行）。

しかし…彼らも既にアラフォー。アラフォーと言えば、体力が低下し徐々にキツくなる年齢です。40代は無理をすると怖い、まさに爆弾を抱えている状態。という事で、アラフォー人気声優が送る、年相応のバラエティ番組をお届けします。アラフォーは代謝が大事ということで、代謝を上げるために、アラフォーなりの頑張りで様々なバラエティ企画にチャレンジしています。

<出演者>

Uncle Bomb（浪川大輔、吉野裕行）

〈委員意見〉

- CSらしい脱力系散歩番組。地上波でも同様の番組はあるが、さらに輪をかけて脱力しているところはCSでしかできない。きれいにうまくまとめられていないところが良いのだろうと思う。
- 2人の声優が下手にテレビ的にしようとしていないところ、テレビ的にこなれていないところが、声優ファンにとっては良いのではないかと思う。自ら積極的に見る番組ではないが、いろいろと発見もあり、よくできている。なお、テロップミスがあったので、間違いがないように入れたほうが良い。
- 出演者も有名な役をやっているようだが、タレントのまねのような、中途半端な印象であった。足立区にほとんどの人は興味がないと思うが、ところどころに奇妙な面白さを感じた。

- 2 時間は長すぎると思う。声優だから喋りは面白いわけではなく、特徴的な何かがみえてこない。権利の問題があるのかもしれないが役柄でナレーションをする、もしくは売れないお笑い芸人も起用したほうが盛り上がったと思う。
- どういう趣味を持っている人に、どう見せるのか、足立区を掘り下げるのか、食べ物なのか、作る目的がきちんとしていないため、もう少しひねりがあると良いと感じた。
- 声優ファンは喜ぶと思うが、声優の強みが出ていないという気がした。放送しているアニメの声優など関連性があれば、加入者が増えるかもしれない。
- 私は、街歩き番組が好きなので、オリジナル番組ということで大変興味を持って見た。タイトルにあるように、どこかに爆弾が落ちるのではないかと思ったが、そこまでの迫力はなかった。
- タレントの街歩き番組はたくさんあり、それぞれ特徴があり、作り方など興味深いものがある。この番組は、従来のどれにも当てはまらないものであった。新たな発見の部分は街中に少しあったかと思うが、全体的に二人が勝手にやっている印象であった。
- 働き盛りの二人なので、元気をなくしている街へ行き勇気づけるなど、そういう意味での爆弾を落とす企画にしてみてもは。
- 誰をガイド役に起用するか、ナレーションだけにするのか、番組で何を取り上げるか、焦点を絞れば魅力的な番組になると思う。

◆テレ朝チャンネル2 ニュース・情報・スポーツ

『「フィギュア特別企画 もう一度観たいあの演技」第3弾!』番組審議◆

<番組内容>

テレビ朝日に残る過去の豊富なフィギュアスケートアーカイブから「視聴者リクエスト」の形で演技を放送!

GP シリーズ・国別対抗戦の演技でリクエストを募集。浅田真央・高橋大輔・羽生結弦などスター選手から、村主章枝・中野ゆかりら実力者まで、視聴者がもう一度観たい名演技をお送りします。第1弾・第2弾に続いて、今ではなかなか見ることのできない貴重な名演技をたっぷりと放送します。

<委員意見>

- フィギュアスケートファンには、シンプルに大変楽しい番組である。興味は羽生選手であり、彼が子供から大人になっていく中で、成長して演技の安定感が増してくるところや、忘れていた選手も登場するなど、非常に興味深く見た。
- CSらしい企画であり、コンセプトがはっきりしていて明確なので、フィギュアスケートファンにしっかり訴える番組と思った。解説・実況などを外して、素材のまま見せることは、コアなファンであればあるほど価値があると思うので、非常に良いことである。また、ダンスやペアなどマイナー種目にも光を当てているところが良い。
- 視聴者がどういうところに注目して、何を期待しているのか、リクエストから見えてところがあり、表彰台に上がるシーンが見たいなど、それぞれのリクエストに応じているところに好感が持てる。リクエスト企画は、ほかのコンテンツでも使うことができるフォーマットなのではないか。
- テレビ朝日ならではのアーカイブを利用した強みを活かし、また、視聴者との繋がりを重視したリクエスト企画というところにも面白さがある。ランキング形式にしたら何位だったのかも気になる。

- シャベリすぎたり、叫びすぎたりなどの他のスポーツ中継に比べると、サイレントなスポーツ番組は良い。地上波では出来ないが、テレビ朝日には多くのアーカイブがあるので、CSの強みを活かして、様々なスポーツコンテンツで同様の番組をやってほしい。
- 解説なしの番組は面白くなかった。技術以外のプラスアルファな解説は見る人にとっても面白く、技術の解説というよりは、違う面での情報を話題性に絡めてやると面白い。スポーツライターを起用するのも良いと思う。
- ナレーションなしだと何回転したか、どこが凄いのかが分からない。野球やゴルフであればある程度は分かるが、見逃してしまうことなどを解説してくれると助かる。フィギュアスケートは大助かりで、解説がないと困る。芸能ファンとしてフィギュアスケートを見ていたことに気が付かされたという点では、大変面白かった。
- この番組を見て、フィギュアスケートの技術の進歩は、もはや異次元のものであるということで、大変楽しめた。素人的な観点では、「衣装はだれがデザインしたのか」「音楽の選曲について」など、雑情報があると面白いと思った。何かの折に入れていただけると有り難い。



7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日
 今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた平成30年3月15日以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めています。
8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日
 平成30年4月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定です。
9. その他の参考事項
 次回の放送番組審議会は平成30年9月に開催予定。

以上